

わくわく ほっと二日市

Vol.1 創刊号



「ほっと二日市 ロゴマーク入り看板」
九州産業高等学校美術部の皆さんに
描いていただきました。

創刊号特集
「活動報告会」
開催される！

- ◆「まちづくり・ひとづくり」
九州大学大学院准教授 趙 世晨
- ◆二日市中央通りの今昔
- ◆ほっと二日市の活動
- ◆ほっと二日市探検隊

代表あいさつ

代表 古野通照



中央通り商店街の空き店舗をお借りし、
会員の皆様方の手作りで昨年5月オープン

から1年が過ぎ、JR二日市駅から西鉄二日市駅の中心市街地活性化のため、いろいろと活動を行ってきました。ほっと二日市の1年間の活動を振り返って見ますと、まちがどう変わっていったのか、皆様方に喜んでいただいているのかなど事業についていろいろと検討させていただきました。まちづくりの活動はその効果が感じられるには、まだまだ地道な活動を行っていかねければなりません。まちづくりは少し時間がかかると思います。よく新聞などで、海で魚を捕って生活しておられる漁業の方が、川の源流の山に植樹されるニュースがあり

ます。海の方が何で山に植樹と思いますが、将来を見据えた地道な活性化活動に通じる所があるように思われます。ほっと二日市も今年中にNPO法人化を予定しており、活動の継続により、まちづくりの活性化拠点としての成果は必ず出てくるものと確信します。住みよく、楽しく活気のあるまち・筑紫野市中心市街地を目指してほっと二日市会員一丸となって頑張ってまいりますので、どうか温かく見守っていただき、ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

ほっと二日市 活動報告会開催される！

5月20日（火）午後7時から三地区公民館で平成20年度の筑紫野市中心市街地活性化委員会（ほっと二日市）の活動報告会が開催されました。参加者はほっと二日市会員、ボランティア会員、来賓として二日市地区の区長、有志の方々49名が参加しました。まず、ほっと二日市古野代表の挨拶があり、次いでほっと二日市の設立から今までの活動報告が東さんよりありました。平成16年より市民参加による中心市街地活性化のワークショップが始まり、市民、商店街それぞれのワークショップを経て平成17年度筑紫野市商業タウンマネジメント計画策定事業にて、平成18年3月TMO構想が策定されました。そのために活動の拠点が必要だという共通認識により商業者、市民、専門家商工会等などTMO構想を検討してきた中心的メンバーにより平成18年11月より拠点作りの検討が始まり、19年3月に『活性化拠点（ほっと二日市）』が完成しました。平成19年4月よりほっと二日市にて、毎週火曜日19時30分から約2時間定例会議を始め、様々な活動を始めました。

★19年度主な活動

4月	プレオープン	商店街のスプリングセールに合わせプレオープン。施設名称「ほっと二日市」に決定
5月	本オープン	留守番役を交代で行い、火曜日から土曜日までの10時から14時まで4時間施設をオープン
7月	七夕まつり ホームページ作成	二日市エリアの七夕まつりを企画。協力店舗数130店舗。無料ホームページを立ち上げ、活動アピール。
9月	経営革新計画開始 ロゴデザイン、看板 デザインのコンペ開始	個店の活性化の重要性も勘案し、中小企業新事業活動促進法に基づき、経営革新計画の承認に努め市内店舗17店舗が取得。 ほっと二日市のロゴデザインと入口の看板デザインを筑紫野市、太宰府市の高校生から募集。
11月	市長と対談 佐世保まちづくりの 研修	活動を市から理解と支援を受けており、挨拶と御礼を兼ねて市長と対談 人口20万都市で日本一元気な街、元気な商店街といわれる佐世保の町おこしのリーダーにお話を聞き、現地を視察。
12月	イルミネーション企画	ほっと二日市と商工会青年部の『パープルナイト2007』と共同企画。多数の支援・ご協力いただく。
2月	通り・路面調査	二日市中心市街地の通りに並ぶ建築物の写真、路面に設置された物（電柱・ポスト・信号・掲示板など）の詳細な路面調査。
3月	まちづくりセミナー 酒蔵開きと連携	九州大学准教授 趙先生をお招きしてまちづくり勉強会 大賀酒造さんの酒蔵開きに合わせて、ほっと二日市でも、似顔絵描きのイベント開催。

まちづくり・ひとづくり

九州大学大学院准教授 趙 世晨



「中心市街地における市街地の整備改善及び商業等の活性化の一体的推進に関する法律」の制定（1998年）から約10年経ちました。この間、数多くの地方都市において中心市街地活性化の対策を講じられてきましたが、その効果が顕著に現れたケースは多くありません。これは戦後五十年掛け

て築き、壊してきた中心市街地を再生させるために、長い年月を要することを物語っています。中心市街地を活性化し、街を再生するという事業は、そこに人が住み、営業し、交流・憩いの場を造り、それを維持していくことでもあります。したがって、実際にそこを使う人の意向を重視した事業展開は成功のカギとなります。しかしながら、事業を実施する以上、リスクを背負わなければなりません。しかも、その主体は民間の私人、企業、あるいはNPOであり、公共セクターが担える領域は限られています。だから、市民の納得を得て事業を展開していくことは極めて重要であり、また、その実施過程を通して、市民の街への愛着を強め、将来の街の姿について官・民が共有できるイメージを育てていかなければなら

りません。同時に官のリーダーシップに頼って、民は反対だけをとなえて妥協点を探るといった従来のやり方ではないやり方が必要です。つまり、官、市民や商業者、ジャーナリズム、有識者や専門家を巻き込んだ幅広い意志決定の過程を経て決められることがはじめて新しい公共性を持つことになります。さらに、街づくりは本来、長期的、広域的な利害を賭けた公共性の高い領域であるために、短期的な動機で動かされず、強い信頼関係を持つ人的ネットワークの形成・強化は不可欠であり、まちづくりは「ひとづくり」でもあると思います。

（参考文献：「街は要る」、荻原敬他著，学芸出版社，2000年）

<変わり行く町の風景>



今から74年前の二日市中央通り商店街です。道路で遊ぶ子ども達でいっぱい・・・

1934年(昭和9) / 二日市中央通り



今から40年前の二日市中央通り商店街です。にぎやかだったあの頃の風景です。

中央通りのネオンアーチ

昭和40年代 / 二日市中央通り

商店が抱える問題点

「ちょっと知識」コーナーです。

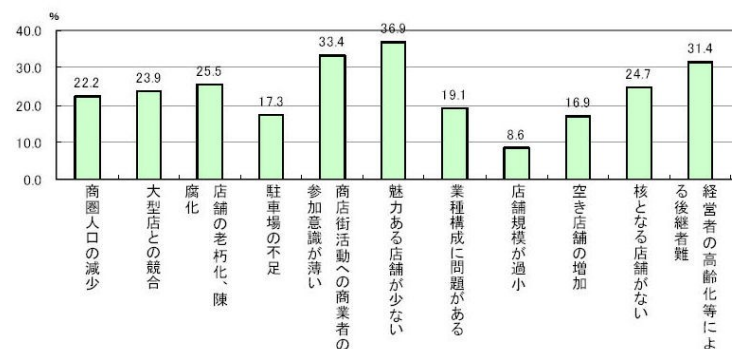
今回は「H18年度の商店街が抱える問題点」をご紹介します。

問題点の第一位は「魅力ある店舗が少ない」

第二位は「商店街活動への商業者の参加意識が薄い」

第三位は「経営者の高齢化による後継者難」

我ら二日市の商店街はどうなのでしょう？



現在

みんなのテーブル

監査 柴田弘毅

ほんと二日市で活動していると、二日市の街は『昔はこんなだった』『盆、正月は人で溢れ歩けない程だった』そんな話をたびたび耳にします。そのほとんどの人が再興の思いを願ってのこのように思われます、また、日常生活の中で『あと１０年もすると車も乗れなくなるし大型店にもいけなくなる、二日市商店街に頑張ってほしい』とも聞きます。

現状に至った一番の原因は、近隣の大型店の出現だと皆さん言われます。競争社会でますます厳しくなる社会、そして高齢化が進む時に私たちはじっとしていいのかな。

『時代と年齢には勝てない』といわれますが勝てなくても変えることはできると思います。

よき時代は過ぎ、余裕をなくし、みなが苦勞し、苦勞の拡大傾向にある現代においては、それぞれの人がそれなりの努力をすべきと考えます。目先の事に捕らわれ、自己の得、利益の追求、これが行き過ぎて余裕をなくしているような気がします。それぞれの人にいろ

いろなパターンがあると思われますが『ほどほどでいい』という観点に立てば、小さくても余裕は生まれてくるような気がします、やりかたによってはその余裕を何倍にも生かせると思います。

二日市の街を一つの『大型商業施設』と位置づけてみましょう。

- ・各店舗には専門知識を持った店主がいて親切に対応してくれる。
- ・会話しながら楽しく買物ができる。
- ・お客様の好みを覚えてくれ仕入れにも配慮してくれる。
- ・店内で休憩ができお茶のサービスをしてくれる店もある。
- ・撤退はなく長いお付き合いで信頼関係が結ばれる。
- ・歩く距離は大型店で買物とほぼ変わらない。

利点は沢山あります。反面、品揃い、売値、バリアフリー等の問題点も考えられますが、問題点は皆の『連携』で解決できると思います。消費者、店舗、地域が各々の立場を思いやり、協議を重ね実行に移し解決する、そんなテーブルを作れたらと思いますし、皆の力で再興したいと願っています。地域のお年より有志で、お年よりグッズ商品を、取り扱う憩いの場も兼ねたお店ができれば素敵ですね、皆で協力したいですね。

イルミ・プロジェクトについて

企画運営担当 東 徹太郎



に引き続き、年末クリスマスの期間中に二日市の商店街がイルミネーションで彩られて歩いて楽しい商店街の演出をサポートします。今年は各商店街ともタイアップして独自イベントも企画する予定です。またイルミネーション飾付コンテスト、ウォークラリー（スタンプ）イベント等により住民が見るだけでなく、参加できる企画も考えています。何しろ昨年以上に二日市の町がサンタであふれた、歩いて楽しいほっとなクリスマスを目指しています。



「ほんと きらっと 二日市08」は昨年

年表・マップ作成プロジェクトについて

企画運営担当 東 徹太郎

まず昨年度作成した「ほんと探検隊（二日市食べ歩き編）」の活用方法を再検討して、有効活用します。そしてその効果を確認したうえで、今年度は引き続き「ほんと探検隊（二日市買い物編）」の作成を検討しています。

また年表については昨年のほんと二日市のスタッフによるワークショップに引き続き、商店街の店主の方にもワークショップに参加してもらう計画をしております。



ほっと二日市のIT機器について

I T 商店街担当 加治幸博

□ I T 機器が揃いました！

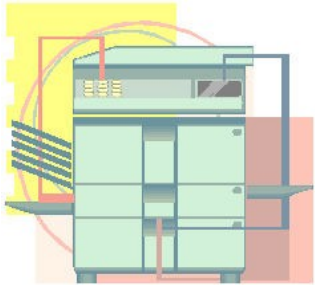
パソコン3台、複合機（プリンター・コピー・FAX・スキャナー）、デジカメなど。パソコン教室などの開催なども計画して商店街のI T 化を推進いたします。

□ インターネット

光ケーブルによる高速インターネットができるようになりました。同時に電話・FAXも使用できるようになりました。

□ コピーサービス

A3までのカラーコピーができます。お気軽にどうぞ(有料です)



動画教室について

I T 商店街担当 加治幸博

4月からパソコンによるビデオ編集教室を開催しています。(毎週木曜日10～12時) 現在、生徒さんは7名。平均年齢は60うん歳！？ビデオ撮影好きで旅行好き。主に旅行のビデオを編集しています。お孫さんの成長記録をまとめてある方も。パソコンの台数は人数分ないので、「自分のわからない点を質問。それに答える。そして、他の方も勉強する。」そんな感じでやっています。ビデオ編集に限らず、パソコンの使い方・デジカメ画像編集など質問があれば幅広く対応しています。二日市の祭りなども撮影していただき、二日市の今を動画で披露できる日がくるといいですね。

今後は別の時間で、パソコン初級・インターネット・ホームページ制作などの教室も開催したいと思います。
パソコンが得意な方も探しています。得意分野を生かして、様々な教室が生まれ、皆さんが集い、ぬくもりのあるI T 商店街になっていけばいいですね。

ほっとオリジナル商品開発プロジェクト

オリジナル商品開発担当 黒木 伊津子

ほっとメンバーの意識向上とオリジナル商品開発により、ほっと二日市の魅力を外にアピールできれば良いとおもっています。
ほっとロゴ入りTシャツをはじめ、缶バッジ・ベスト・帽子という楽しいオリジナル商品を開発いたします。
皆さんで作って行きたいのでアイデア等がありましたらお聞かせください！
ほっと二日市の魅力に成る楽しく、すばらしいオリジナル商品を製作しましょう！



シンボリストリート計画

特別運営担当 池田ショウタ

シンボリストリート計画は、西鉄二日市からJR二日市、湯町までの通りを、通行者に強く認識させて、人の流れを生み出すことで、町の振興を進める計画です。この通りの中に休憩所やデザインの統一感を考えた案内板等を設置し、利用者の快適さや満足を助けていきます。平成19年度に行った路上調査を元に、配置場所や内容を決め、実行に移していきます。また、他イベントとも連動して告知を行います。この計画で、商店街以外の通りまで計画に入れている理由は、商店街以外の通りまで伸ばす事で、その地域の住民に少しずつ一体感、親近感を持ってもらう事で、この道の先には何があるのだろうか？この先にあのお店があったよなと思ってもらう事で、商店街地域への人の流入を促進させる狙いがあるからです。息の長い、一過性では無い活動としていきたいと思っています。



まちづくり学習会・FM開局検討

特別運営担当 池田ショウタ

まちづくり学習会は、ほっと二日市のまちづくり能力向上のための計画です。多くの地域活動は、担当者の経験や苦勞、また失敗談などを次の担当者に分かりやすく伝える仕組みが無いために、何度も同じ失敗をしたり、担当者が一人で悩んだりする事が多くあります。過去の経験や失敗談、他の事例を上手く活用できる仕組みを作っていきます。まちづくりの資料や、観光パンフ、町の案内地図や新聞記事などを収集して、自分たちの活動記録を残していきます。それらを活用したまちづくりに関する学習会を行います。そして同じような活動をしている人々を集めて、まちづくりサミットを福岡市天神でも無く、博多でも無く、この二日市で行えると良いと思っています。FM開局検討は、佐世保のはっぴい！FMや西新・高取・藤崎商店街のStyle FMのようなコミュニティFMの実現が可能かを検討する企画です。



ほっと二日市の七夕祭り

七夕担当 四季庵

昨年、JR 二日市駅周辺から西鉄二日市駅周辺迄の商店の店先を、七夕の笹飾りで飾る事を計画し、該当する四商店街に協力を依頼したところ、意外にも、地元商店のみならず、大手チェーン店の協力も得られ、140 本程の飾りを立てました。



また地元幼稚園・保育園の園児達が協力して作ってくれた飾りを、商店街の数カ所に設置したこともあり、園児達の親も一緒に商店街を訪れてくれました。

ほっと二日市の活動は、商店街の活性化にも貢献出来る事が理想的なのですが、まずは住民・市民の皆さんが、歩いて楽しい通りになる事が目的ですし、子供達の思い出の中に、学校や町内と共に、商店街の思い出も含まれる事を願っております。

今年も、8 月上旬に昨年同様の七夕祭りを予定しておりますが、開催期間が学校の夏休み中という事もあり、より子供達に楽しんでもらえる様な内容にしたいと計画中です。

フラダンスの開催について

副代表 フラダンス推進担当 花田幸雄

今、静かなむブームになっているフラダンスを『ほっと二日市』主催による、よさこい祭りのフラダンス版になれば最高。フラダンスを通じて、市民・商店街の人たちの交流を計り、郊外の大型店にない地域密着型の心と心の触れ合い、子ども 1 1 0 番の充実等安心して住める街づくりをやる、それによる商店街の賑わいが少しでも回復できるようこのイベントを生かしたい。まずは一步一步前進あるのみ、皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

各店舗の売上向上こそが重要

個店活性化担当 中村純治

ほっと二日市が発足して、まずは最初に実施したことが「七夕祭り」でした。イベントを実施し街の賑わいを創出することは大切です。そういう意味では、まずまずの出足でした。

しかし、結果として「各店舗の売上が向上したか否か」が重要となってきます。そのため、「まちづくり」とともに進めなければならないのが「個店の活性化」です。「個店の活性化」として活用した国の施策が「経営革新計画承認」の取得でした。「経営革新計画の承認」とは県知事が承認します。経営革新計画は①地域内のほかの店舗が実施していないような「新しい試み」であること、②その試みを実施することで「利益が増加する」ことが条件です。

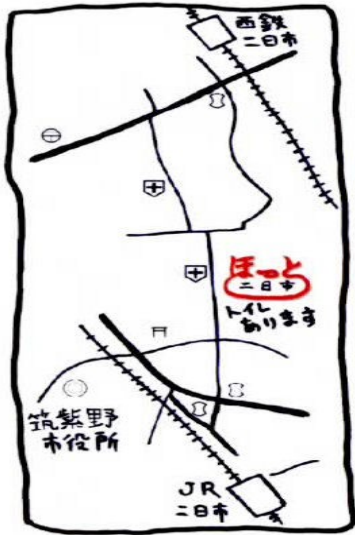


昨年度は古野代表のお店古野文具店から始まり、商店街で 17 店舗が取得しました。今年度も多くの店舗が取得できるように活動していく予定です。「我が店こそは」と思われる方はほっと二日市に是非声をかけてください。

シャッター絵描き

シャッター絵描き担当 仲山みちこ

日曜日に商店街を歩いてみる。開いている店はほとんどなく、無機質なグレーのシャッターが降り、人通りもなく閑散としている。シャッターに絵を描くことで、この無機質な街並みをなくし、店主の顔が見える街並みに変えることができれば、商店の賑わいを取り戻すための第一歩となれば・・・ そんな思いを胸に、店主の顔が見えるシャッターが一店舗、一店舗と増えることを願って、シャッターの絵描きに取り組んで生きたいと思います。



ほっと二日市は
福岡県筑紫野市の
二日市エリアを中心に
活動している
まちづくりの団体です
街全体が元気になることが
私たちの願いです
一緒に活動する
仲間を募集しています

発行元:ほっと二日市広報委員会 広報担当 下成・行徳・渡辺・中村・加治
〒818-0072 筑紫野市二日市中央 3-9-7 サイトウビル 1F
連絡先 TEL : 古野文具店 092-922-2501
代表 : 古野通照
URL : <http://hotfutukaichi.hp.infoseek.co.jp/>